



**宗湖寺**  
モアイ像に似たユニークな仏像は馬頭観音像の原型とされています。六道輪廻思想(天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道)のうち、畜生道から救ってくれるのが馬頭観音と信仰されています。

**四ツ塚神社**  
建御方之命の直系四霊神をそれぞれ祀っています。「原祝神」や「五味祝神」などの文字も見えます。

**明治天皇御小休所**  
明治13年の京都御巡幸の際、五味邸で約1時間お休みになされました。宗湖寺の井戸で汲んだ水でお茶を入れたそうです。道路拡張工事のため解体されていました。

**三輪神社**  
宮川茅野・西茅野両区の産土神。本殿は大隅流の矢崎玖右衛門の代表作で中国の昔物語を題材にしています。境内には丸くて可愛い道祖神も。

**茅野川明神(亀石神社)**  
かつては諏訪明神の重要拠点でした。「御射山祭」では神事のため亀石神社から御頭御社宮司社を経て酒室神社へ向かいました。石碑は、このマップ編集前、東側に位置する石碑群に移転しています。

**一里塚**  
ここは江戸から五十里(約200km)。かつて街道の両端に築かれた塚は取り壊され、民家の間に碑だけがひっそりと残ります。四十九里は金沢舟。五十一里は諏訪市四賀。

**宮川茅野石碑群**  
「三山大権現」碑の巨石が目を引きます。羽黒山・湯殿山・月山権現は山形県の出羽三山の山岳信仰で、そちらへの参詣記念に石碑を建てました。

**酒室神社**  
諏訪明神の大切な例祭である「御射山祭」神事の祭場であり、前夜祭にはどぶろくを作って奉納した。盛大な神事は8月26日に行われる「穂屋祭」境内にある雨降塚の石碑には古墳の石室のふたが使われています。その他に歴史ある巨石も目を引きます。

**東京から192kmの標柱**  
左の一里塚と比べてびっくり! かつての甲州街道と現代の国道20号線とはルートは違うものの、測量器が発達していない時代のものとの大差がないんだね。

**坂室石碑群**  
石碑群の中の「六十六部」の碑は、写経で全国行脚を行った人々を敬い、功德を積んだ証としたもの。「二十三夜」講碑は安産祈願。石碑群の右側に上る細い道が古道と考えられます。

**寒天屋群**  
寒天屋の蔵が軒を連ねます。最盛期の当時をうかがわせます。

**坂室石像群**  
街道沿いにあった石仏44体を集めたもの。この付近に甲州街道の難所があり、崖から落ちた人や馬を供養するために建立されました。当時の旅の困難と危険を物語ります。

**坂室公園**  
小高い丘の旧道の傍らに、厄除けや天候の神を祀った複数の石祠があり、江戸時代の坂室の人々の信仰の深さをうかがうことができます。この中で「三峯様」には茅で覆う風習が残っています。

**南無阿弥陀仏碑(ひとつ石)**  
この地点から上方の山中を通っていた慶長道路の難所から、転落した人や馬を弔うために建てられた説と、追いはぎに襲われた家族を弔うために建てられた説があります。この碑の礎の石は古いもので、もとは宮川村と金沢村の境界を示していました。

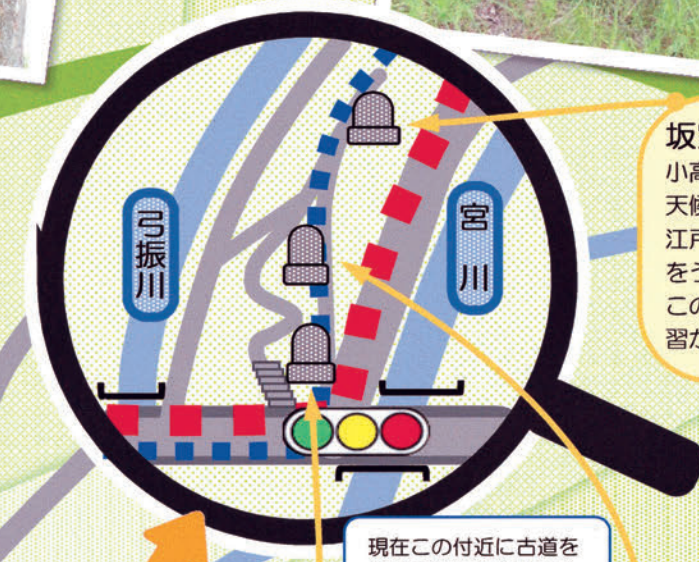
**木舟石碑群**  
「三山大権現」碑は出羽三山神社の信仰として建てられました。他にも「太神宮」碑は伊勢神宮参詣の記念に建てられたもの。「山倉大六天」碑は仏様を守る「天」を祀ったもの。

**貴船神社**  
祈雨・止雨の神として水を司り、農耕の神様である「タカオカミ」の神を祀ります。氾濫の多かった宮川を鎮めるために祈りを捧げていたのでしょうか。本社は京都にあり。

**街道の表示**  
甲州街道を ■■■■ で表示しました。甲州街道は江戸時代に参勤交代用に整備された主要道路です。  
※街道の経路は、時代の移り変わりにあわせて整備が進むたびに変わっていったことから諸説ありますが、資料等を参考に、私たち学習専門委員会考えた経路を表示しました。  
古道(慶長道路)を ■■■■ で表示しました。慶長道路は甲州街道以前の主要道路です。  
※マップ作りの過程で古道の存在を学習しました。経路には諸説ありますが、整備が進んだ甲州街道と比較するために表示してみました。

本来の甲州街道はまっすぐで、現在の線路を横切っていたんでしょうね...

線路を渡るには東側に上る道路をたどります。



現在この付近に古道をたどる道はありません。

現在この付近に古道をたどる道はありません。

線路を渡り終え国道20号線方面へ視線を向けるとちょうど電車が通りかかりました。いにしへの街道と現代の交通機関との交差点にちょっと感動。

